



2017年8月31日

パイオニア株式会社

株式会社みちのりホールディングス

パイオニアとみちのりホールディングス 路線バスの自動運転化の技術開発に向けた実証実験に合意

パイオニア株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役 兼 社長執行役員:小谷 進、以下、「パイオニア」)と株式会社 みちのりホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本 順、以下、「みちのりホールディングス」)は、路線バスの自動運転の実現に向け、共同で実証実験を行うことに合意しました。

今回の合意は、将来的な路線バスの自動運転化に向けて、路線バスにおけるスムーズかつ安心・安全な自動運転を実現する技術の検証を目的としています。傘下に複数のバス会社を所有し、路線バスの運行ノウハウを持つみちのりホールディングスと、カーナビゲーションで培った高い自車位置精度、自動運転に必要なとされる走行空間センサー「3D-LiDAR」や自動運転用地図などの開発を進めるパイオニアが、それぞれの強み、知見を持ち寄り、2018年3月期中に実証実験を開始します。

【路線バスの自動運転化に向けた両社の役割】

- ・みちのりホールディングス:関係バス会社の車両の提供および熟練バス運転手の運転情報(走行履歴など)の収集
- ・パイオニア:カーナビゲーションシステムや自動運転に係る技術などを活用した実証実験用システムの構築およびデータの分析

対象となるバス会社や路線など実験の詳細については、両社において今後協議を進めてまいります。

【自動運転・高度運転支援に関するパイオニアの取り組み】

パイオニアは、2006年にプローブデータを活用した独自のネットワークシステム「スマートループ」をいち早く立ち上げ、システム搭載車両で精度の高い渋滞情報などを共有するサービスの提供をしているほか、2016年にそのビッグデータを活用して先進運転支援を実現する「マルチドライブアシストユニット」を発売するなど、安心・安全・快適なドライブをサポートする、さまざまな車載機器やサービスを開発・提供しています。現在、これまで培ってきた光ディスクなどの技術を活かし、車載用途に適した高性能で小型・低コストな「3D-LiDAR」の開発を進めており、一般車両からの周辺情報を自動的に収集して自動運転用地図を更新・配信する効率的な整備・運用システム「データエコシステム」の構築・提案を目指しています。

【株式会社みちのりホールディングスの概要】

東北、北関東エリアで約2,200台のバスを運営、広域にわたる複数の交通・観光事業会社の持株会社。傘下に岩手県北バス、福島交通、会津バス、関東自動車(栃木)、東野交通、茨城交通、湘南モノレールの7つの交通・観光事業グループを有しています。